

地域ケアフォーラム 2012 参加レポート

社会福祉士 木原 正和

12月15日(土)山口県立大学において「地域包括ケアフォーラム」が開催されました。「“地域力”を生かす包括的支援のあり方を探る」をテーマに基調講演や実践報告が行われました。介護保険制度の新たなステージとして、「個別支援から地域支援へ」の流れを再確認することができました。



「地域包括ケア」の5つの視点として、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」があげられています。例えば、「生活支援」でも介護保険ではないサービス(見守りや買い物支援など)が今後ますます必要とされることが予想されます。ケアマネは個人(家族)と契約しますが、個人を支援するためには地域のカも必要で、その地域に潜在するインフォーマルな地域資源をどのようにマネジメントしていくか。また、「医療」の面においても、退院支援をどのようにして地域と一緒にになって支援していくか……「3. 11」以後、地域の力を活かしながらの個別支援が試されているような気がします。

事業者間においても、「競争と協働」が期待されています。地域の中の事業者が地域課題に対して一緒に取り組んでいく。そのためにも日頃からの関係づくり・場づくりが大切です。釜石市の事例においても、震災当日、想像以上の津波により避難場所になっていた中学校よりもさらに高台にある介護保険事業所が避難所として確保されたそうです。これも、日頃からの「行政・事業者・地域」において定期的なケア会議を行っているからこそ対応できるのだと実感させられました。

今後、さらに高齢化が進んでいく中、高齢者が介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で過ごすためどうしたらいいか……。 「地域の課題把握」と一言でいうと簡単ですが、その地域の強みを発見し、人と人をつなげるためにも前述した地域も含めた関係者同士の場づくりが「情報の共有」・「思いの共有」、さらには「人材育成」、「地域の活性化」にもつながることを支援者が意識しながら活動していくことが重要であることを認識させられた今回のフォーラムでした。

